

第3学年国語科学習指導案

実践期間 平成18年9月4日～9月15日
対象学級 雫石町立雫石中学校第3学年
4組 男子21名、女子16名、計37名
5組 男子21名、女子17名、計38名
指導者 教諭 小田中 一

1 単元名

第4単元 古典を楽しむ 昔の人の思いや考え方をとらえ、古典を楽しむ

教材名 * 「音読を楽しもう『古今和歌集仮名序』」「君待つと 万葉・古今・新古今」
夏草 『おくのほそ道』から
学びて時にこれを習ふ 『論語』から

2 単元について

(1) 単元について

急速に国際化が進む現代社会において、国際交流を図るために諸外国に目を向けて、多くの知識情報を得ることが求められている。一方で、自国の文化や伝統を学び、大切にすることは重要である。日本には、はるか昔から祖先が育んできた多くの文化があり、私達はその恩恵を受けて現在まで生きてきた。私達が、祖先の使った言葉の意味やその言葉に込められた感情を理解し、古典の文章や和歌を鑑賞して、その美学や面白さを分かることは、古典を理解することであり、ひいては自分の心を豊かにしていくことでもある。

本単元では、三大和歌集において音読による古文調の調べに慣れ親しむことを中心にして、古典の調べをじっくり味わい、「おくのほそ道」では日本人の無常・はかなさを感じ取り、更に日本が多大な影響を受けた中国の古典として「論語」を鑑賞することで、古典に対する感性や資質を育てていきたい。

古典の学習をとおして、昔の人のものの見方や考え方に触れることは、視野を広げ、幅広く社会や自己を見つめる上で有意義である。また、文体の特徴やリズム、現代と異なった表現などを知ることで、その面白さに気づき、味わいながら読むことができれば、自分の生活に豊かさを加えたり、新たな発見をしたりすることもできる。そのために、繰り返し読むことを重視する指導を心がけ、解釈や歴史的背景などについても、生徒にとって身近に感じられるように工夫したい。そして、古典が日本人の伝統文化や人生観を今に伝えるものであり、そこに重要な価値があることを理解させるとともに、これまで受け継がれてきた古典を大切に思う気持ちを養いたい。

特に、三大和歌集の学習においては、我が国の古典に触れ、日本人に脈々と流れる伝統や自然観、ものの見方や考え方を学ばせたい。

(2) 教材について

万葉の昔から千数百年にわたって、日本人の心に受け継がれてきた和歌は、言語能力の中の想像力や感受力を養うのに役立つ教材である。本教材は、『古今和歌集』仮名序及び、日本三大和歌集である『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』から取り上げられた17首の和歌で構成されている。教材は、大きく「愛」と「自然」という二つのテーマにまとめられているととらえられる。それぞれの和歌にこめられた心情を中心に、描かれている情景の違いなどを読み取ることができ、また、『古今和歌集』仮名序を音読することで、表現や文体の特徴をとらえて読み味わわせることもできる。更に、和歌を鑑賞するだけでなく、読者としての生徒自身の思いを想像させ、表現させる活動に発展させることもできる教材である。本教材で、和歌の世界に浸り、昔の人の思いを想像しながら読み味わうことは、普遍的な人間の真実や、日本人に脈々と流れる美意識や感性に気づき、我が国の文化や伝統について関心を深めることにつながる。

和歌は五音・七音を基調とした定型詩であり、洗練された言葉遣いに触れると、古文が現在の日本語につながっていることや、古人が、現代の私達と同じようなことを考えたり感じたりしていたことが、確かなこととして感じられる。そして、千年以上も昔から続く我が国の文化や伝統が、自分の中にも間違いなく息づいているのだと改めて思い知る。古典の学習はそれに気づくことであり、ひいてはそれを大切なことと思い、次の世代に継承しようとする気持ちを、心に芽生えさせることである。こうした学習を積み重ねることで、中学校国語科のねらいとする「伝え合う力」や「豊かな言語感覚」、「国語を尊重する態度」などが養われるものと考えられる。

(3) 生徒について

本単元を指導するにあたり、古典の学習に対する生徒の意識を調査したところ、次のような結果が得られた。古典学習の意義について、意義を理解している生徒の割合が56.7%、理解していない生徒の割合が43.3%であ

り、意義を感じている生徒が若干多いものの、ほぼ同程度の割合と見ることもできる。意義を理解している生徒は、学習への意欲が高く、古典学習の必要性を強く認識していることなどが、生徒が記述した内容から読み取れる。また、意義を感じていない生徒は、その理由として、「古典を使わないから」が圧倒的に多く取り上げられており、古典学習の意義を曲解していると推察される。

古典学習は、これまで段階を追って系統的に指導されてきている。また、韻文の学習に関しては、2年生の「短歌を味わう」で、五・七・五・七・七のリズムを体感する学習をしており、3年生では、俳句も学んでいる。本単元では、これまでの学習を踏まえ、古文に対する抵抗を取り除くように配慮したい。そして、内容の解釈のみを目的とするのではなく、それぞれの時代に生きた古人の思いを感じ取らせることをねらいとしたい。

(4) 指導について

古典学習における1年生の指導事項は、古典に対する興味・関心、古人の生活の理解といった「内容面」を主として取り上げ、2年生では、朗読・暗唱や語彙・表現といった「言語面」の比重を重くし、3年生では、両方の調和を図りながら昔の人の思想や心情に触れ、それについての自分の感想・意見をもたせるようにするという指導が、中学校古典学習として一般的に行われていることである。

私達は単に現在に存在しているのではなく、連続した過去からの時の流れの中で生きている。その意味を考えるために、昔の人のものの見方や考え方に触れ、現在の生き方を見つめ直すことは、これからの言語活動に有意義なものとなる。そのためには、比較的難解な古典の学習に、どれだけ興味や関心をもたせるかが課題である。そこで、全員参加の授業を展開し、今後の言語活動につなげたい。細かな技法の解説に深入りせず、原文を用いた訓読による古典独特の調べを味わわせ、作品の情景や作者の心情に迫らせたい。古典学習をとおして、現在に生きる自分自身を見つめ直すきっかけをつかめるように、指導していきたい。

指導にあたっては、日本人が好んだ五音・七音のリズムを体得できるように、繰り返し音読することを大切にしたい。その過程で、句切れや表現技法に触れながら、和歌を味わうような指導をしていきたい。また、発展学習として、「百人一首」を取り入れる。「百人一首」は、古来から和歌のバイブルとされ、生徒達の学習を深めるのに適した教材である。中学校古典学習では、内容を解釈することが主たる目的ではなく、親しみをもたせることが大切である。本教材では、和歌の細かな内容を理解することではなく、音読や朗読などをとおして楽しい古典学習ができ、和歌そのものにどれくらい心をひかれていくのかを第一の目的としたい。

和歌を鑑賞する上で大切なことは、古文の読みに慣れることである。古文のリズムをつかみ、自分の力で読めるようになることは、母国語としての日本語への関心を高めることにつながるとともに、古典の魅力を知ることにもなる。そこで、音読練習を繰り返すことで、リズムをつかませ、和歌に親しみをもたせたい。

3 単元の目標

(国語への関心・意欲・態度)

・古典を味わい、古人の人間や自然に対する思いに触れ、進んでイメージを広げたり深めたりする。

(話すこと・聞くこと)

・古典を読み、自分のものの見方や考え方を深め、話し言葉を豊かにする。

(書くこと)

・古典の洗練された文章を書き写すことにより、的確に書き表す能力を高める。

(読むこと)

・繰り返し音読して、情景や作者の心情をとらえる。

・教科書の脚注や資料等を手がかりにして大意をとらえ、作者が生活の中に見つけた美しさや感動を理解する。

(言語についての知識・理解・技能)

・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直すとともに、古典特有の表現方法を理解する。

4 単元の指導計画(全10時間)

第一次	・『古今和歌集』仮名序を読んで、表記の仕方や文章の特徴を理解する …………… (1時間)
	・教科書掲載の和歌を味わう …………… (3時間)
	・百人一首をとおして古典の世界を味わう …………… (1時間)
第二次	・『おくのほそ道』の解説や旅立ちを読んで内容や芭蕉について理解する …………… (1時間)
	・平泉の文章を読み、芭蕉の心情を味わう …………… (1時間)
	・全体を繰り返し音読し、芭蕉の人柄を読み取る …………… (1時間)
第三次	・漢文の特徴を理解し、繰り返し音読する …………… (1時間)
	・内容を読み取り、作者の心情をとらえる …………… (1時間)

国語科 単元の指導と評価の計画表 <第3学年>

単元四 教材名 「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」」(光村図書)

学習指導要領の内容 (指導事項)		指導と評価の計画			
<p>【第3 指導計画の作成と内容の取扱い(1)-(4)イ】 古典の指導については、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。その教材としては、古典に関心をもたせるように書いた文章、易しい文語文や格言・故事成語、親しみやすい古典の文章などを生徒の発達段階に即して適宜用いるようにすること。なお、指導に当たっては、音読を通して文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにし、文語における言葉のきまりについては、細部にとどまらず、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。 【読むこと-ア】文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること 【読むこと-ウ】表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと 【読むこと-エ】文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと 【読むこと-オ】目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること 【言語事項(1)-イ】慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意すること 【言語事項(1)-ウ】抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること 【言語事項(1)-カ】単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること</p>		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の効果的な使い方や理解して、語句の用い方がどのような効果を生んでいるかに目を向ける(読-ア) ・歴史的仮名遣いに注意して音読し、独特な言葉の響きやリズム、語調を味わうとともに、古典和歌の作品を、表現の特徴を押さえながら読み取る(読-ウ) ・「和歌」に対する昔の人々の思いをとらえ、人間や自然に対する考え方を理解するとともに、我が国の代表的な三大和歌集から幾つかの作品を読み、それぞれの時代の人々の自然や人間を愛する心、生活の中のさまざまな場面での細やかな感情を読み味わう(読-エ) ・三大和歌集の和歌の中から、ものの見方や感じ方に着目して、好きな和歌を読み味わう(読-オ) ・歴史的仮名遣いや和歌のリズムに関心をもち、理解を深める(言(1)-ア) ・多様な語句の意味や用法に注意する(言(1)-イ) ・古語に対する理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにする(言(1)-ウ) ・助詞や助動詞の働きに注意する(言(1)-カ) 			
<p>評価の観点</p> <p>国語への関心・意欲・態度</p>		<p>読む能力</p> <p>言語についての知識・理解・技能</p>			
<p>評価規準() (単元)</p>		<p>十分満足</p> <p>努力を要する</p>			
<p>単位時間ごとの計画</p>		<p>具体的評価規準()・判断する具体的な姿()</p>			
第1時	<p>目 標</p> <p>古今集仮名序を正確に音読することができる</p> <p>学習内容</p> <p>1 全文音読 2 内容理解 3 音読発表会</p>	<p>1 古文に関心をもち、すすんで声に出して読もうとする</p> <p>1 古文について知っていること、学んだことなどを話したり書いたりしている</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>4 古文のリズムに気を付けて音読している</p> <p>4 古語や古文の特徴を意識して、つまりずい音読している</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>8 歴史的仮名遣いや古文のきまりについて理解している</p> <p>8 歴史的仮名遣いをほぼ理解し、古文のきまりのおおよそがわかっている</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>評価結果に応じた指導</p> <p>への指導</p> <p>4については、個人やグループで繰り返し読ませるとともに、本時の中で個別に指導する</p> <p>8については、本時の中でヒントカードを参考にし取り組むように支援する</p>
第2時	<p>目 標</p> <p>『万葉集』を読み、心情や情景などの内容を読み取る</p> <p>学習内容</p> <p>1 和歌音読 2 内容理解 3 まとめ</p>	<p>2 和歌に詠まれた古人の生活やものの見方、考え方に興味を高めようとする</p> <p>2 和歌を詠んで、古人の生活やものの見方、考え方に興味を向けている</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>5 和歌のリズムに気を付けて音読している</p> <p>5 五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがある</p> <p>6 和歌に詠まれた心情や情景などの内容を、注釈や補説を手がかりにして読み取っている</p> <p>6 注釈や補説を参考にして、内容のおおよそを読み取っている</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>9 主語や述語などの省略された言葉を読み取る</p> <p>9 発問内容を理解して半分以上は答えられる</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p> <p>10 長歌・反歌・枕詞・係り結びの法則など、古典和歌の特徴や表現技法についての知識を得る</p> <p>10 古典和歌の特徴や表現技法の半分以上を理解している</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>への指導</p> <p>5については、何度も音読させながらリズムに気をつけさせる</p> <p>6・9・10については、Gアップシートを活用して復習させる</p>
第3時	<p>目 標</p> <p>『古今和歌集』と『新古今和歌集』を読み、心情や情景などの内容を読み取る</p> <p>学習内容</p> <p>1 和歌音読 2 内容理解 3 まとめ</p>	<p>3 和歌をとおして、我が国の伝統文化について関心を深めている</p> <p>3 百人一首に取り組み、下の句を聴いて、該当する札を見つけようとしている</p> <p>授業中・後 - (学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>7 百人一首の読み手の読みを聴いて、復唱しながら取り札を探している</p> <p>7 自分の取った札を見て復唱し、その和歌の鑑賞をとおして、古典を楽しんでいる</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>11 百人一首を源平合戦で行う方法を理解している</p> <p>11 百人一首の取り札を、ほとんどお手つきしないで取っている</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>への指導</p> <p>7・11については、読み札の順序を考慮して、札が取れるように配慮する</p>
第4時	<p>目 標</p> <p>三大和歌集の特徴や代表的和歌を読み味わう</p> <p>学習内容</p> <p>1 和歌音読 2 内容理解 3 まとめ</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>
第5時	<p>目 標</p> <p>百人一首に親しみ古典の世界を味わう</p> <p>学習内容</p> <p>1 方法理解 2 源平合戦 3 まとめ</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>
<p>観点ごとの総括</p>		<p>国語への関心・意欲・態度</p> <p>B: Gアップシート、学習プリント、自己評価のいずれかに、古典及び和歌に対する興味を示している様子が読み見られる</p> <p>A: 他の単元と合わせて総括する</p>			
<p>総括の仕方</p>		<p>国語への関心・意欲・態度</p> <p>Aは、その他の教材の「関心・意欲・態度」の評価結果と合わせて総括する。</p> <p>「読む能力」については、音読、Gアップシートの記述内容を補助簿に記録しておき、すべてAを「A」、すべてB以上を「B」とする。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」については、すべてAを「A」、すべてB以上を「B」とする。</p>			

単位時間の指導計画 1 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」 (中3：光村図書)

目 標		・古今和歌集仮名序を正確に音読することができる<古典に親しむ段階>					
学習活動における具体的評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・「仮名序」の音読をとおして、言葉の響きやリズムに親しみ、和歌への関心を広げることができる		読 む 能 力 ・古文のリズムをつかみ、仮名遣いに注意して音読し、言葉の響きや調子を味わうことができる		言語についての知識・理解・技能 ・音読をとおして、助詞の省略や係り結び、対句などの古文の表現の特徴に気付くことができる	
段 階	時 間	指 導			評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判断する具体的な姿	評 価 方 法	
前 時	20 分	オリエンテーション	事前調査(『伊勢物語』第9段(東下り))に取り組む	・緊張感を和らげられるように配慮する ・設問の出来不出来に一喜一憂させない	・集中して真剣に取り組んでいる ・既習事項を想起して解答しようとしている	・学習プリント	
導 入	5 分	1 学習内容の確認 2 学習課題の把握	1 古典学習に対する既習事項を思い出し、これからの古典学習に向かう姿勢作りをする 2 古今和歌集仮名序の学習を行うことを理解する * 『古今和歌集』「仮名序」を正確に音読して、言葉の響きやリズムを味わおう	・1年生、2年生で学習した古典の内容を想起させ、これからの古典学習の見通しをもたせる ・和歌へのイメージや関心の程度を、自由に話せる雰囲気作りを心がける ・学習課題の提示(紙板書)	・古文学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している	・観察 ・机間指導 ・学習プリント	
展 開	35 分	3 課題追究 1 4 課題追究 2 5 課題追究 3 6 課題追究 4 7 課題解決	3 言葉の響きやリズム、語調などに気を付けて原文を音読する 4 現代語訳を参考にして、原文のおおよその内容をとらえる 5 表現の特徴を理解する 6 表現の特徴を生かして音読する 7 発表会をする	・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど、変化を付けて、興味を持続させる指導をする ・和歌の本質を植物にたとえて説いている部分を探させる ・文末表現、対句、係り結び、助詞などについて、生徒の気づきを大切にしながら、適宜助言する ・個人読み、グループ読みの形態を工夫して、古文を読むことへの抵抗をなくし、言葉の響きやリズムに慣れさせる ・グループごとに発表させる ・発表後の評価の観点を示し、お互いに評価させる	・ヒントカードを参考にしてGアップシートに取り組んでいる ・範読を聴くとき、自分が音読することを意識して読めない漢字や歴史的仮名遣いにふりがなを付けている ・歴史的仮名遣いやリズムに気を付けてつまずかずに音読している ・現代語訳を見たり、補説を聞いたりして、本文のあらまじや表現の特徴のおおよそがわかる ・公平に分担を決めて音読練習し、その成果についてグループ毎に特徴ある音読にして表現している	・Gアップシート ・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	【古文を正確に音読する場面】における活用 「Gアップシート」 を活用して、歴史的仮名遣いの決まりを復習させた後に、範読で確認させる 追い読み、微音読、音読、発表へ発展的に読ませ、読むことに対する抵抗を減らしていく 評価結果に応じて補足説明したり、音読を繰り返したりして、正確に音読させる
終 末	10 分	8 学習のまとめと評価 9 次時予告	8 古今和歌集仮名序に表れている和歌の本質や力についてまとめる 9 次時の学習内容を知る	・本時の学習内容のまとめと同時に、学習態度及び、グループ発表の様子も評価する ・三大和歌集の概略に触れながら「君待つと」への導入と結び付ける	・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	

単位時間の指導計画 2 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」（中3：光村図書）

目 標		・『万葉集』を読み、心情や情景などの内容を読み取ることができる<古典を楽しむ段階>					
学習活動における具体的評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・音読をとおりて和歌のリズムを楽しみ、和歌に対する興味や関心を高めることができる		読 む 能 力 ・和歌の大意をとらえて音読し、語句や表現、リズムなどに注意することができる ・万葉集の代表作品について、昔の人の思いや情景などの内容を読み取ることができる		言語についての知識・理解・技能 ・古典和歌の表現技巧について理解することができる	
段 階	時 間	指 導		評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方	
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判断する具体的な姿	評 価 方 法	
導 入	5分	1 前時学習内容の想起 2 学習内容の確認 3 学習課題の把握	1 前時の学習内容を想起する 2 『万葉集』に掲載された和歌について学習することを確認する 3 本時の学習課題を知る * 『万葉集』の代表作品を音読して、和歌に詠まれた心情や情景を読み取る	・古今和歌集仮名序の音読の様子を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・教科書に掲載された和歌に目を向けさせ、学習の見通しをもたせる ・学習課題の提示(紙板書)	・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している	・観察 ・机間指導 ・学習プリント	
展 開	35分	4 課題追究1 5 課題追究2 6 課題追究3 7 課題解決	4 出典を参考にしながら、万葉集についての基礎的事項をまとめる 5 教科書に掲載された9首の和歌を、言葉の響きやリズム、語調などに気を付けて音読する 6 それぞれの和歌に詠まれた心情や情景を、脚注や補足説明を参考にして、次の点を中心に理解する (1)「春過ぎて…」：句切れ、体言止め、助詞省略 (2)「東の…」：語句(ひむかし、かぎろひ) (3)「天地の…・田児の浦ゆ…」：長歌と反歌、格助詞「ゆ」、係り結び (4)「憶良らは…」：句切れ、推量の助動詞「らむ」 (5)「君待つと…」：助詞省略、語句(君) (6)「多摩川に…」：語句(東歌)、リズム、句切れ (7)「父母が…」：語句(防人)、係り結び (8)「新しき…」：体言止め、作者、リズム 7 学習内容をふりかえり、内容を確認する 8 答え合わせをして、達成状況を確認する	・成立年代、巻数、首数、主な作者などについて、必要な範囲でまとめさせる ・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど変化を付けて、興味を持続させる ・読みの抵抗を減らす工夫をする ・大意把握、助詞の省略、係り結びの法則、語句の意味などについて、ポイントを絞りながら補足説明する ・補助資料を提示する ・和歌を取り上げる順序を、次のストーリーに従って扱う * 暮らしの中の思いを掴む <東歌、防人歌、山上憶良> * 情景を読み取る <持統天皇、人麻呂、赤人> * 心情を読み味わう <額田王、大伴家持> ・Gアップシートに取り組ませる	・出典を参考に、プリントに記入している ・五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがあるときもリズムを乱すときもある <評価結果に応じて、何度も音読させながらリズムに気を付けさせる> ・注釈や補説を参考にして、それぞれの内容のおおよそを読み取っている ・古典和歌の特徴や表現技巧について、そのおおよそを理解している ・Gアップシートに真剣に取り組み、既習事項をふりかえっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 ・Gアップシート	前時のGアップシート(拡大コピー)を掲示しておく 【作品に描かれた心情や情景などの内容を確認する場面】における活用 ・「Gアップシート」 (『万葉集』の既習和歌を取り上げて再構成したGアップシート)を活用して、作品に描かれた心情や情景などの内容を読み取らせ、達成状況を確認する 読み取りの不十分な設問について、解説を加える
終 末	10分	8 学習のまとめと評価 9 次時予告	9 学習内容をまとめる 10 次時の学習内容を知る	・本時の学習内容のまとめと自己評価をさせる ・『古今和歌集』『新古今和歌集』の学習に、意欲をもたせる	・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	

単位時間の指導計画 3 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」 (中3：光村図書)

目 標		・『古今和歌集』と『新古今和歌集』を読み、心情や情景などの内容を読み取ることができる<古典を楽しむ段階>					
学習活動における具体的評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・音読をとおして和歌のリズムを楽しみ、和歌に対する興味や関心を高めることができる		読む能力 ・和歌の大意をとらえて音読し、語句や表現、リズムなどに注意することができる ・古今和歌集と新古今和歌集の代表的作品について、昔の人の思いや情景などの内容を読み取ることができる		言語についての知識・理解・技能 ・古典和歌の表現技巧について理解することができる	
段階	時間	指 導			評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方
		学習過程	生徒の活動	教師の支援	判断する具体的な姿	評価方法	
導入	5分	1 前時学習内容の想起 2 学習内容の確認 3 学習課題の把握	1 前時の学習内容を想起する 2 『古今和歌集』と『新古今和歌集』に掲載された和歌について学習することを知る 3 本時の学習課題を知る * 『古今和歌集』と『新古今和歌集』の代表作品を音読して、和歌に詠まれた心情や情景を読み取る	・万葉集を学習したときの様子を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・教科書に掲載された和歌に目を向けさせ、学習の見通しをもたせる ・学習課題の提示(紙板書)	・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している	・観察 ・机間指導 ・学習プリント	
展開	35分	4 課題追究 1 5 課題追究 2 6 課題追究 3 7 課題解決	4 出典を参考にしながら、古今和歌集と新古今和歌集についての基礎的事項をまとめる 5 教科書に掲載された8首の和歌を、言葉の響きやリズム、語調などに気を付けて音読する 6 それぞれの和歌に詠まれた心情や情景を、脚注や補足説明を参考にして、次の点を中心に理解する (1)「人はいさ…」: 句切れ、係り結び、語句意(人、ふるさと、花) (2)「しら露の…」: 色彩の対比 (3)「思ひつつ…」: 語句(夢)、句切れ (4)「飛鳥川…」: 句切れ、語句(飛鳥川、よみ人しらず) (5)「花さそふ…」: 句切れ、語句(花)、倒置法 (6)「道の辺に…」: 助詞省略、句切れ、係り結び、作者 (7)「見わたせば…」: 句切れ、体言止め、幽玄の美、三夕の歌 (8)「玉の緒よ…」: 情景と心情、句切れ 7 学習内容をふりかえり、内容を確認する 8 答え合わせをして、達成状況を確認する	・成立年代、巻数、首数、主な作者などについてまとめさせる ・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど、変化を付けて、興味を持続させる指導をする ・読みの抵抗を減らす工夫をする ・大意把握、助詞の省略、係り結びの法則、語句の意味などについて、ポイントを絞りながら補足説明する ・補助資料を提示する ・和歌を取り上げる順序を、次のストーリーに従って扱う * 季節感を読み味わう <紀貫之、藤原敏行> * 恋愛感情を読み味わう <小野小町、「飛鳥川…」> * 自然美の情趣を掴む <藤原定家、宮内卿> * 情景から心情を読み取る <式子内親王、西行法師> ・Gアップシートに取り組ませる	・出典を参考に、プリントに記入している ・五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがあるとリズムを乱すときもある <評価結果に応じて、何度も音読させながらリズムに気を付けさせる> ・注釈や補説を参考にして、それぞれの内容のおおよそを読み取っている ・古典和歌の特徴や表現技巧について、そのおおよそを理解している ・Gアップシートに真剣に取り組み、既習事項をふりかえている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 ・Gアップシート	前時までに活用したGアップシート(拡大コピー)を掲示しておく 【作品に描かれた心情や情景などの内容を確認する場面】における活用 ・「Gアップシート」 (『古今和歌集』・『新古今和歌集』の既習和歌を取り上げて再構成したGアップシート)を活用して、作品に描かれた心情や情景などの内容を読み取らせ、達成状況を確認する 読み取りの不十分な設問について、解説を加える
終末	10分	8 学習のまとめと評価 9 次時予告	9 学習内容をまとめる 10 次時の学習内容を知る	・本時の学習内容のまとめと自己評価をさせる ・次時の学習に意欲をもたせる	・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	

単位時間の指導計画 4 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」 (中3：光村図書)

目 標		・三大和歌集の特徴や代表的和歌を読み味わうことができる<古典を楽しむ段階 >					
学習活動における具体的な評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・和歌をととして古人の生活やものの考え方に興味を向けることができる		読 む 能 力 ・和歌の大意をとらえて音読し、語句や表現、リズムなどに注意することができる ・作者の心情や作品の情景について理解することができる		言語についての知識・理解・技能 ・古典和歌の表現技巧について理解することができる	
段 階	時 間	指 導			評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判断する具体的な姿	評 価 方 法	
導 入	5 分	1 前時学習内容の想起	1 前時の学習内容を想起する	・三大和歌集をととして学習してきた内容を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・学習の見通しを明確にさせ、意欲的に取り組ませる ・学習課題の提示(紙板書)	・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している	・観察 ・机間指導 ・学習プリント	
		2 学習内容の確認	2 三大和歌集を発展させた学習に取り組むことを確認する				
3 学習課題の把握	3 本時の学習課題を知る *好きな和歌を一首選んで朗読しよう *教科書掲載以外の和歌の心情や情景を味わおう						
展 開	35 分	4 課題追究 1	4 三大和歌集の教科書掲載和歌を音読する	・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど、変化を付けて、興味を持続させる指導をする ・読みの抵抗を減らす工夫をする ・古人発表を基本として、場合によってはペアで発表する ・発表後の評価の観点を示し、お互いに評価させる ・Gアップシートに取り組ませる ・机間指導を行うとともに、場合によってはグループ学習で取り組ませる ・生徒の発言をたくさん取り入れながら、適宜補足説明する	・五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがあるときリズムを乱すときもある <評価結果に応じて、何度も音読させながらリズムに気を付けさせる> ・注釈や補説を参考にして、それぞれの内容のおおよそを読み取っている ・古典和歌の特徴や表現技巧について、そのおおよそを理解している	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 ・Gアップシート	【学習内容の理解や定着の状況を確認する場面】における活用 ・「Gアップシート」 初見の和歌で構成されたGアップシートを活用して、これまでの学習内容の理解や定着の状況を確認する 理解や定着の不十分な設問について、解説を加える
		5 課題解決 1	5 心に響いた和歌を朗読する				
		6 課題追究 2	6 教科書掲載和歌以外の和歌について、情景や心情を味わう				
		7 課題解決 2	7 Gアップシートの答え合わせをする				
終 末	10 分	8 学習のまとめと評価	8 今までの学習についてまとめる	・三大和歌集を総括的にまとめる ・自己評価をさせる ・発展学習として百人一首に取り組むことを知らせる	・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	
		9 次時予告	9 次時の学習内容を知る				

単位時間の指導計画 5 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」 (中3：光村図書)

目 標		・百人一首に親しみ、古典の世界を味わうことができる<古典を味わう段階>					
学習活動における具体の評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・百人一首をとおして、当時の人々の暮らしに思いを巡らすことができる		読 む 能 力 ・和歌の語句や表現、リズムに注意して、読み慣れることができる		言語についての知識・理解・技能 ・表現の仕方や特徴に注意して、日本語の移り変わりを知らることができる	
段 階	時 間	指 導			評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判断する具体的な姿	評 価 方 法	
導 入	5分	1 前時学習内容の想起	1 前時の学習内容を想起する	<ul style="list-style-type: none"> ・三大和歌集をとおして学習してきた内容を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・学習の見通しを明確にさせ、意欲的に取り組ませる ・学習課題の提示(紙板書) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・机間指導 ・学習プリント 	
		2 学習内容の確認	2 三大和歌集を発展させた学習に取り組むことを確認する				
3 学習課題の把握	3 本時の学習課題を知る *百人一首をとおして和歌の魅力を味わおう						
展 開	35分	4 課題追究 1	4 源平合戦のルールを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・厳密なルールではなく、百人一首に親しむ上で必要な、最低限のルールを提示する ・グループの人間関係に配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・源平合戦のルールがわかり、意欲的に取り組もうとしている ・読み札の下の句までを聞いて、該当する取り札を探している ・ほとんどお手つきすることなく取り札を取り、自分の取った札を見て復唱し、和歌を鑑賞している 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・観察 ・学習プリント 	「アップシート」 を掲示(拡大コピー)して、歴史的仮名遣いや表現技法などについて再確認させる
		5 課題追究 2	5 グループ毎に源平合戦を行う				
		6 課題解決	6 百人一首をとおして感じたことや思ったことなどを発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントにメモ程度で書かせた後に発表させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・百人一首をとおして古典の世界を楽しんでいる 		
終 末	10分	7 学習のまとめと評価	7 今までの和歌の学習についてまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の学習を総括的にまとめる(百人一首のみに固執しない) ・夏草「おくのほそ道」の学習に取り組むことを知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 	
		8 次時予告	8 次時の内容を知る				
後 時	20分	ふりかえり	事後調査(『伊勢物語』「第9段(東下り)」)に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張感を和らげられるように配慮する ・設問の出来不出来に一喜一憂させない 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して真剣に取り組んでいる ・既習事項を想起して解答しようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント 	

この調査は、古文の学習に対するみなさんの様子をたずねるために行うもので、成績には関係ありません。自分の考えに一番近いものを一つ選んで記号に を付け、それを選んだ理由も書いてください。

1 あなたは、古文を学習することは大切だと思いますか。理由も書いてください。

ア 思う イ 少し思う ウ あまり思わない エ 思わない

記号	理	由

2 これまでの古文の学習で、あなたは、どのような学習のときに意欲的に取り組むことができましたか。

2つ選び、その理由も簡単に書いてください。

ア 歴史的仮名遣い イ 昔の言葉の意味 ウ 話の内容の理解 エ 音読・朗読や暗唱

オ 昔の人の生活や考え方 カ 現代語訳と原文の対比 キ 視写 ク その他()

記号	理	由

3 これまでの古文の学習で、あなたは、どのような学習のときに意欲的に取り組むことができませんでしたか。

2つ選び、その理由も簡単に書いてください。

ア 歴史的仮名遣い イ 昔の言葉の意味 ウ 話の内容の理解 エ 音読・朗読や暗唱

オ 昔の人の生活や考え方 カ 現代語訳と原文の対比 キ 視写 ク その他()

記号	理	由

ご協力ありがとうございました。

この問題は、これからみなさんと古文の学習を進めていく上で、どのような学習が望ましいかについて知るために行うものです。テストではありませんから、成績には一切関係ありません。みなさんは、自分の考えに最も近いと思うものを一つ選んで、をつけてください。

<古文の特徴理解>

- 1 あなたは、古文の特徴（歴史的仮名遣いのきまり・語句の意味・文法など）を知っていますか。
ア 知っている イ だいたい知っている ウ あまり知らない エ 知らない

<古文の内容理解>

- 2 あなたは、古文を読むとき、内容（心情や情景・作者の思いなど）を想像してみようと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<音読（一人読み）>

- 3 あなたは、古文を「一人で」読むとき、文章のリズムに気をつけて読もうと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<音読（一斉読み）>

- 4 あなたは、古文を「みんなで」読むとき、文章のリズムに気をつけて読もうと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古人の考え方の理解>

- 5 あなたは、古文の学習で昔の人の様子（暮らしや考え方など）を知ることが楽しいと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古人からの学び>

- 6 あなたは、古文の学習から学ぶことがたくさんあると思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<考え方の比較>

- 7 あなたは、古文の学習で昔の人と自分のものの見方や考え方を比べますか。
ア 比べる イ 比べることが多い ウ 比べないことが多い エ 比べない

<学習内容の活用>

- 8 あなたは、教科書で学んだことを、他の古文で確かめてみることは必要なことだと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<学習内容の復習>

- 9 あなたは、授業で学んだことを、もう一度やりますか。
ア やる イ やるほうだ ウ やらないほうだ エ やらない

<古文学習への思い>

- 10 これから学習する古文の授業に対するあなたの考えを自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

この問題は、みなさんと古文の学習を進めてきた方法が、望ましいものであったかどうかについて知るために行うものです。テストではありませんから、成績には一切関係ありません。みなさんは、自分の考えに最も近いと思うもの一つを選んで、つけてください。

<古文の特徴理解>

1 あなたは、今回の授業をふりかえって、古文の特徴（仮名遣いのきまり・語句の意味・文法など）を理解できましたか。

- ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<古文の内容理解>

2 あなたは、今回の授業を振り返って、古文の内容（心情や情景・作者の思いなど）が理解できましたか。

- ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<音読（一人読み）>

3 あなたは、古文を「一人で」読む場面で、文章のリズムに気をつけて読むことができましたか。

- ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<音読（一斉読み）>

4 あなたは、古文を「みんなで」読む場面で、文章のリズムに気をつけて読むことができましたか。

- ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<古人の考え方の理解>

5 あなたは、古文の学習で昔の人の様子（暮らしや考え方など）を知ることが楽しいと思えますか。

- ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古人からの学び>

6 あなたは、古文の学習から学ぶことがたくさんあると思えますか。

- ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<考え方の比較>

7 あなたは、古文の学習で昔の人と自分のものの見方や考え方を比べますか。

- ア 比べる イ 比べるほうだ ウ 比べないほうだ エ 比べない

<学習内容の活用>

8 あなたは、教科書で学んだことを、他の古文で確かめてみることは必要なことだと思いますか。

- ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<学習内容の復習>

9 あなたは、授業で学んだことを、もう一度やりますか。

- ア やる イ やるほうだ ウ やらないほうだ エ やらない

<Gアップシート活用に関する有用感・有効性・取り組み方>

10 あなたは、Gアップシートに進んで取り組もうとしましたか。

- ア した イ したほうだ ウ しなかったほうだ エ しなかった

11 Gアップシートは、古文を学習するために役立ちましたか。

- ア すごく役立った イ 役立った ウ 役立たなかった エ 全く役立たなかった

12 Gアップシートは、和歌の内容を読み取ることに効果があったと思えますか。

- ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

13 Gアップシートに取り組む時間は十分でしたか。

- ア 十分 イ ほぼ十分 ウ 少し足りなかった エ 足りなかった

14 Gアップシートは、取り組みやすいシートだと思えましたか。

- ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古文学習への思い>

15 今回の古文の授業で、あなたが感じたり考えたりしたことを自由に書いてください。

[Empty box for writing answers]

ご協力ありがとうございました。

次の古文を読んで、後の各問いに答えなさい。

- 1 昔、男ありけり。その男、身をえつなきものに思ひなして、「京にはあらじ、東の方に住むべき国求めに。」とて行きけり。もとより友とする人、一人一人して行きけり。道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。
- 2 三河の国八橋といふ所に至りぬ。そこを八橋と言ひけるは、水ゆく川の蜘蛛手なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋と言ひける。その沢のほとりの木の陰の下りゐて、乾飯食ひけり。
- その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、かきつばた、といふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠めと言ひければ、詠める。
- A 唐衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ
と詠りければ、みな人、乾飯の上に涙落としてほとびにけり。
- 3 行き行きて駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入らむとする道はいと暗う細きに、つた、かへでは茂り、もの心細く、すすろなるめを見ることと思ふに、修行者会ひたり。「かかる道は、いかでかいまする。」と言ふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。
- B 駿河なるうつの山辺のうつつにも夢にも人にあはぬなりけり
富士の山を見れば、五月のついでもりに、雪いと白う降りけり。
- C 時知らぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ
その山は、ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ねあげたらむほどして、なりは塩尻のやつになむありける。
- 4 なほ行き行きて、武威の国と下総の国との中にいと大きな川あり。それをすみだ川と言ふ。その川のほとりに群れ居て、思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかな、とわびあへるに、渡し守、「はや舟に乗れ、日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて渡らむとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。
- さる折しも、白き鳥の、嘴と脚と赤き、鳴の大ききなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ。京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ都鳥。」と言ふを聞きし。
- D 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はいやなしやと
と詠りければ、舟こそりて泣きにけり。

古典（和歌）に挑戦しよう

「万葉集」に詠まれた思いや情景を理解することができると
次の和歌を読んで、あとの各問いに答えなさい。

A 春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山
持統 天皇

B 東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ
柿本人麻呂

C 天地の 分かれし時ゆ 神さびて 高く責き 駿
河なる 布土の高嶺を 天の原 振り放け見れば
渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず 白
雲も い行きはばかり 時しくそ 雪は降りける
語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 不尽の高嶺は

反歌
D 田児の浦ゆつち出でて見れば真白にそ不尽の高嶺
に雪は降りける

E 憶良は今は籠らむ子泣くらむそを負ふ母も吾を
待しらむぞ
山上 憶良

F 君待つと吾が恋ひをれば我が屋戸のすだれ動かし
秋の風吹く
額田 王

G 多摩川にさらす手作りならさらしに何ぞこの児のこ
こだ愛しき
東 歌

H 父母が頭かき撫で幸くあれていひし言葉せ忘れか
ねつる
防人 歌

I 新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉
事
大伴 家持

問一 Aの和歌について、作者は、何を見て「夏来
たるらし」と感じ取ったのか。和歌中の言葉
四字を書き抜きなさい。

「白栲の衣」

問二 Bの和歌について、この和歌に合う評を、次
から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア しじみじとして細やか
- イ 堂々として力強く雄大
- ウ のどかで温かい雰囲気
- エ あかるくさわやかな感じ

問三 C及びDの和歌中 線部「分かれし時ゆ」
の「ゆ」と、「田児の裏ゆ」の「ゆ」とは、意味
が異なる。それぞれの意味を書きなさい。

「分かれし時」から

「田児の浦」を通じて

問四 Eの和歌からどんなことが感じられるか。
次から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア 仲間と集まって語る楽しさ
- イ 親子が引き裂かれる悲しさ
- ウ 家族のことを思う温かい心
- エ 遠いところで暮らす寂しさ

問五 Fの和歌は、どのような歌い方といえるか。
次から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア 隠すことなく、率直に自分の恋心を歌う
- イ 技巧を用い、自分の恋心を客観的に歌う
- ウ 自分の恋心を隠して、屈折した形で歌う
- エ 自分の恋心を、事実を誇張した形で歌う

問六 Gの和歌は、「東歌」であるが、東国地方の歌
であることは、どの言葉からわかるか。和歌の
中から書き抜きなさい。

「多摩川」

問七 Hの和歌は、「父母」が作者に何と言ったのか。
和歌中の言葉四字を書き抜きなさい。

「幸くあれ」

問八 Iの和歌について、「新しき年の始めの初春の
今日」とは、何月何日ですか。

「一月一日」

三年	国語	Gアップシート	読古2	解答
----	----	---------	-----	----

組 番・氏名

古典(和歌)に挑戦しよう

・「古今和歌集」「新古今和歌集」に詠まれた思いや情景を理解することができる。
次の和歌を読んで、あとの各問いに答えなさい。

A 人はいそ心も知らずふるそとは花ぞ昔の香にほひける
紀 貫 之

B しら露の色はひとつをいかにして秋の木の葉をちぢこそむむじむ
藤原敏行

C 思いつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせばなめゆらましき
小野小町

D 飛鳥川淵は瀬になる世なりとも思ひそめてむ人は忘れじ
よみ人しらす

E 花さそふ比良の山風吹きにけりこぎ行く舟の跡みゆるまじ
宮内卿

F 道の辺に清水流るる柳かげしばしとてこそたちどまりつれ
西行法師

G 見たせば花ももみぢもなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮れ
藤原定家

H 玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることのひわりもぞすめ
式子内親王

問一 Aの和歌の 線部「そ……ける」に用いられている文法上のきまりは何が書きなさい。

「係り結びの法則」

問一 Bの和歌において、「ひとつ」と対照的に使われている言葉を、和歌の中から書き抜きなさい。

「ちぢ」

問二 Cの和歌の 線部「人」とはどんな人か。次から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア 深く心に思つ人
- イ ごく身近な親しい人
- ウ 少し気になる人
- エ 物語に登場する人

問四 Dの和歌は、どんな心情を歌っているか。次から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア 好きな人をあきらめた寂しい思い
- イ 好きな人を愛するひたむきな恋心
- ウ 好きな人から愛を告白された驚き
- エ 飛鳥川が好きだった人への愛の心

問五 Eの和歌に詠まれている「花」は、何の花か。

「桜」

問六 Fの和歌の中から、涼感を感じさせる言葉を二つ書き抜きなさい。

「清水と柳かげ」

問七 Gの和歌は、何句切れか答えなさい。

「三句切れ」

問八 Hの和歌の 線部「玉の緒」の意味を書きなさい。

「わたしの命」

三年	国語	Gアップシート	読古A	解答
----	----	---------	-----	----

組	番・氏名
---	------

古典（古文の基礎）に挑戦しよう

・歴史的仮名遣い及び古文の特徴を理解することができよう
 次の文を読んで、あとの各問いに答えなさい。

一 学校生活のおもひで。
 二 犬がえさをくはくはしてゐる。
 三 庭に花をつゑる。
 四 六時にクラブ活動がはまる。
 五 お年玉をいっぱいもらった。
 六 本をとがる。
 七 けふは私の誕生日です。
 八 あつたまの耳はロバの耳。
 九 グラフとグラフに書いておす。
 十 彼女はしづじを習つてゐる。
 十一 おやつのときおくわしを食へる。
 十二 祖母にむすしを習つてもらつた。
 A 小僧あり。(小僧 いた。)
 B 日いまだ暮れず。(日 まだ暮れない。)
 C 散ればこそいとご桜はめでたけれ……
 D ……となむ読みたりける
 E 頭は尻そぎなる足の日、目と髪のおはる
 F 殿上童の、装束きたてられて……
 G 今はとて天の羽衣着るをりぞ君をあはれと思ひこぼける

問一 上の一から十二の各文の 線部を、それぞれ現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

- 一 「おもひで」
- 二 「くわえて」
- 三 「つゑる」
- 四 「おわる」
- 五 「いっぱい」
- 六 「とじる」
- 七 「きょう」
- 八 「おつたま」
- 九 「ひょう」
- 十 「しゅじ」
- 十一 「おかし」
- 十二 「むすし」

問二 上のAとBの古文を()のよつに現代語訳したとき、
 に入る言葉を、それぞれ書きなさい。

- A 「小僧 が いた。」
- B 「日 は まだ暮れない。」

問三 上のCとDの古文で、
 線を引いた部分に用いられている法則が何か書きなさい。

「係り結び」の法則

問四 上のEとFの古文で、
 線を引いた「の」は、現代文では共通して別の助詞に変わります。それをひらがな一字で書きなさい。

「 が 」

問五 Gの和歌を、五句に分けるとき、どこで切れるか。
 各句の切れ目「」を書きなさい。

「今はとて一天の羽衣一着る
 をりぞ一君をあはれと思
 ひいでける」

古典(和歌)に挑戦しよう

・和歌の特徴として「万葉集」に詠まれた思いや情景とを理解することが出来る。
次の和歌を読んで、あとの各問いに答えなさい。

A 石はしる垂水の上のなむらびの萌え出づる
春になりけるかま 志貴皇子

岸の上を激しく流れ落ちる滝のほとりのむらびが芽を出し春になったなあ。

B タされば小倉の山に鳴く鹿は今夜は鳴かず
い寝にけらしも 舒明天皇

夕方になると、いつも小倉の山で鳴く鹿が、今夜は鳴かない。もう寝てしまっただけいなあ。

C 瓜食めば子ども思ほゆ栗食めばまして偲は
ゆ何処より来たりしものそ眼交にもとな懸
かりて安眠し寝なぬ 山上憶良

瓜を食べると子どもが自然と思われ、栗を食べると、いつも子どもがいてく懸わわめ。いつた、子どもはどこからやって来たものか。子どもが目の前にきこえなくなると、私に安眠もさせられぬ。

D 銀も金も玉も何せむにせむらわゆる時子にしか
めやも 山上憶良

銀も金も珠玉も貴いものであるけれど、どうして優れた宝のある子どもに及ぼりか。いや、及びはしない。子どもこそが一番の宝であらう。

E 韓衣裾に取りつき泣く子を置いてそ来ぬ
や母なしにして 防人歌

衣服の裾に取りすがって泣く子どもたちを置いてきてしまったなあ。その子どもの母親もいないの。

【キーワード】	
イ 鎌倉時代初期	ロ 奈良時代後期
ハ 平安時代初期	ニ 約四千五百首
ホ 約二千首	ヘ 約十百首
ト 紀貫之	チ 藤原定家
リ 大伴家持	ヌ ますらをぶり
ル たをやめぶり	ヲ 幽玄・有心

問一 Aの和歌について

(1) 用いられている表現技法を、次から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア 倒置法
イ 字余り
ウ 体言止め
エ 対句

(2) 作者に春の訪れを感じさせたものを、歌の中から抜き出して書きなさい。

〔 ㇿ ㇿ ㇿ わらび ㇿ 〕

問二 Bの和歌について

(1) この和歌は、何句切れの和歌が書きなさい。

〔 ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ 句切れ ㇿ 〕

(2) この和歌の調子は、「五七調」「七五調」のどちらなのか書きなさい。

〔 ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ 調 ㇿ 〕

問三 Cのうちの「五七五七……七七七」の形式で作られた和歌を何と書いて書きなさい。

〔 ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ 〕

問四 Dの和歌は、Cの和歌の後に添えられる和歌ですが、この和歌を、特に何と書いて書きなさい。

〔 ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ 〕

問五 Eの和歌について、「泣く子」は、なぜ泣いているのか書きなさい。

〔 ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ 〕

問六 上の【キーワード】に書かれているものの中から、『万葉集』に関係のあるものを四つ探して、記号で書きなさい。

〔 ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ ㇿ 〕

和歌の主な表現技法

- ・体言止め 歌の終わり(結句)を体言(名詞)で止めて、余韻を残す
例 村雨の露もまだひぬまきの葉に霧立ちのぼる秋の夕暮れ
- ・見立て・擬人法 ある物を別の物になぞらえる技法
例 山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり
- ・倒置法 主語と述語、修飾語と被修飾語の順序を入れ替える技法。調子を整え、強調する。
例 ちはやぶる神代も聞かず 竜田川からくれなゐに水くくるとは
- ・枕詞 言葉の飾りで、意味は歌にあまり影響しない。決まった組み合わせで用いられ、主に五音からなる。
例 あしひきの：山・峰 あをによし：奈良 しろたへの：衣・袖・雲
ちはやぶる：神 たらちねの：母 ぬばたまの：黒・夜・髪
- ・掛詞 一つの言葉に二つ以上の意味をもたせて、歌の内容を豊かにする。
例 山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば
かれ：(人目も) 離(か)れ・(草も) 枯れ
- ・その他 縁語⇨関連深い語を意識して用いる技法
序詞⇨ある語句を導き出すためにその前置きとして用いられる言葉
本歌取り⇨すでに読まれた古歌(本歌)の語句を取り入れる技法

和歌の調べ <リズム>

- ・句切れ 意味や調子の上の切れ目。作者の感動の中心。
- ・五七調(万葉調) 二句切れ(57/577)・四句切れ(5757/7)
- 力強く重々しいリズム。素朴で儼かな感じ。
- ・七五調(古今調) 初句切れ(5/7577)・三句切れ(575/77)
- 優しくなめらかなリズム。優雅・軽快な感じ。

古文の 表現の特徴

- 1 省略された「助詞」(は・が・を・で、など)
省略された「主語」(誰が)
省略された言葉
- 2 係り結びの法則(そ・なむ・や・か・こそ)
- 3 会話文の力(「」)

音読・朗読の 注意点

- 1 正しい姿勢・その場に合った声の大きさ・相手を意識した態度で読む
- 2 正確さと読むときの速さで読む
- 3 アクセントやイントネーションに気をつけて読む(強弱を意識して読む)
- 4 読んでいる内容の情景を思い浮かべ、豊かな表情で読む

歴史的仮名遣いの 五つの法則

- 1 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」はそれぞれ「わ・い・う・え・お」に変わる
- 2 「ゐ・ゑ・を」はそれぞれ「い・え・お」に変わる
- 3 「ぢ・づ・む」はそれぞれ「じ・ず・ん」に変わる
- 4 「くわ・ぐわ・つ・や・ゆ・よ」はそれぞれ「か・が・(つ)・や・ゆ・よ」に変わる
- 5 「ア段+う(ふ)」は「オ段+う」に
「イ段+う(ふ)」は「イ段+ゆ」に
「エ段+う(ふ)」は「イ段+よ」に
それぞれ変わる